

「経管チューブ」からお薬を
投与される患者さまへ



懸濁ボトルを用いた方法

かんい けんたく ほう
簡易懸濁法による
お薬の経管投与の手順

経管投与患者様へのお薬の投与方法 ～簡易懸濁法の説明～

当院では、経管投与の患者様の投薬に際し、安全で確実な投与方法である「簡易懸濁法」という方法で対応しております

< 「簡易懸濁法」とは >

お薬を経管チューブから投与する場合に錠剤やカプセル剤を粉末状にしたものではなく、錠剤やカプセル剤をそのまま温湯(約55℃)に入れて懸濁させてから、お薬を経管的に投与する方法のことです

錠剤やカプセル剤を約55℃の温湯で攪拌

→ 10分間崩壊・自然放冷

→ 経管チューブ投与

患者様にお渡しするお薬は、粉末状に粉砕行為は行わず、錠剤やカプセル剤そのままの剤形で一包化しております

*なお、お薬が硬い場合やコーティング錠の場合には、懸濁しやすいように軽く砕いた状態で一包化していますのでご了承ください

< 錠剤やカプセル剤を粉末状にしない簡易懸濁法のメリット >

● お薬の効果・安定性が保たれます

錠剤やカプセル剤のままなので、粉末状にしたときに比べ、光、温度、湿度、配合変化などの影響が少なくなります

● 経管チューブの閉塞が避けられます

「経管投与ハンドブック」(じほう社)にてお薬のチューブ通過性を確認しています

● 投与前のお薬の内容が確認できます

錠剤やカプセル剤の識別コードで薬品名が確認可能になります

● 中止や変更に対応できます

数種類の薬品を一緒に混ぜた粉薬では、中止・変更に対応できませんが錠剤・カプセルでは容易です

● 薬物治療の幅が広がります

粉砕法に比べ、使用できる薬品数が増え選択肢が多くなります

● お薬代が安くなります

同じお薬でも錠剤より散剤の方が高い場合があるためです

● 待ち時間が短縮されます

調剤にかかる時間が、簡易懸濁法では錠剤・カプセルのままなので、粉砕し粉末状にするよりはるかに短くすみ、患者様のお薬待ち時間が短縮されます

お問い合わせ等ございましたら、当院薬局へご連絡下さい

Tel:0553-32-5111(代)

お薬の調製方法

1. 懸濁ボトルのキャップを開け1回分の薬剤を入れます



※注意事項

シロップ剤等の液剤は、温度を下げてしまい、崩壊を妨げるので、懸濁ボトルには一緒に入れず、別々にしてください。



2. 約55℃の温湯を作ります

～55℃の温湯の作り方～

【方法①】 「ポットの熱湯 2:水道水 1」の割合で混ぜる

ポットの熱湯



水道水



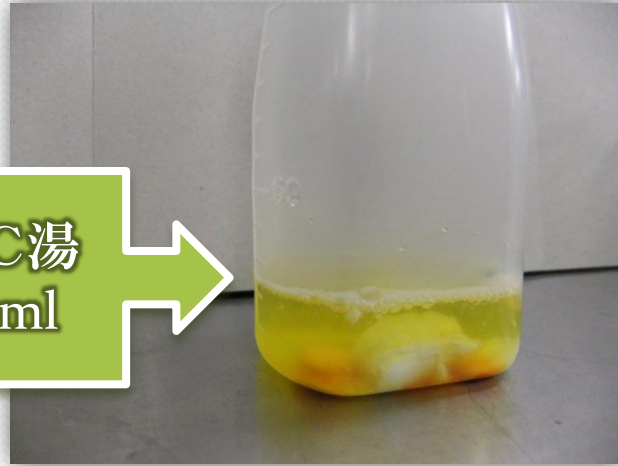
【方法②】 ポットを60℃設定(ミルク設定)にして、コップ等に注ぎ4～5分程度冷ますか、水を少し加える

60℃設定



3. 約55°Cの温湯約20mlを懸濁ボトルに入れます

約55°C湯
約20ml



4. よく振ります
(10回程度)



5. 10分間以上放置してください

(この間に薬剤が崩壊します)



6. 経管チューブに接続する前に再度よく振ってください



※10分放置後には、体温に近い温度になっています

7. チューブに接続して、懸濁ボトルを握って投与します

ボトルを握り、人肌の温度になっていることを確認してから注入してください



8. 逆流しないようにチューブを折り曲げるか、ロックします



折り曲げる



ロックする

9. 経管チューブから懸濁ボトルを抜きます

逆流に注意！！



10. 投与後、水を懸濁ボトルに入れ、再度残薬を流してください

(懸濁ボトルやチューブ内の残薬を流します)

約20~30ml程度



11. 台所洗剤で洗います



★ ボトルの接続口は、「注ぎ口洗いブラシ」が便利です



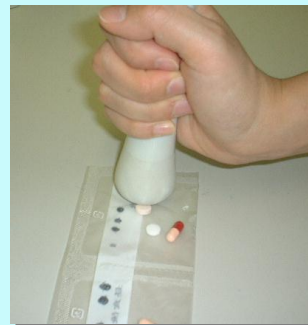
一週間に一度、漂白剤でつけ置き洗いしてください

懸濁ボトルの破損や著しい劣化の際は、交換してください

～ お薬の調製時の注意点 ～

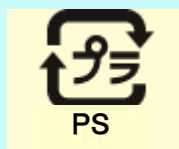
- 水剤と温湯を混ぜると温度が下がって、錠剤が懸濁しにくくなる為、混ぜないで別々に投与してください
- マドパー錠(抗パーキンソン薬)とマグミット錠(下剤)を一緒に懸濁すると変化を起こし黒くなるので、別々に懸濁して投与してください
- タケプロンOD錠は、懸濁してから15分以内に投与してください
(このお薬が含まれている場合はお知らせします)
- 栄養剤の途中で薬を投与する時は、チューブ内の栄養剤を水で流してから薬を注入し、終了後再びチューブ内の薬を水で流してください
- 懸濁後の浮遊物や残りカスは、コーティングフィルムやカプセルなので、そのまま注入できます
- 懸濁に時間がかかる薬は、薬局で薬を砕く処理をしています

※懸濁しない薬剤がある場合は
薬局までご連絡ください



- 懸濁ボトルが破損したり劣化したときは、交換してください
(おおよそ数か月の使用が交換目安です)
- 材質表示が「PS」「ポリスチレン」「スチロール樹脂」の器具(マグカップ・計量カップ・使い捨てスプーン等)を使用しないでください。薬が器具を溶かしてしまふことがあります

使用
不可



お薬の調製のながれ

- ① 懸濁ボトルに薬を入れる
 - ② 55℃のお湯を作る
 - ③ ②のお湯を20mL入れる
 - ④ よく振る
-
- ⑤ 10分間以上放置
-
- ⑥ 再度よく振る
 - ⑦ 経管チューブに接続して注入
 - ⑧ チューブをロックする
 - ⑨ 経管チューブからボトルを抜く
-
- ⑩ 水で残薬を流す
-
- ⑪ ボトルの洗浄



じほう社の「内服薬 経管投与ハンドブック」を
参考にパンフレットを作成しました